

光明寺 鎌倉市材木座 6-17-19

第四代執権北条経時が開いた浄土宗の大本山。1240年（仁治元）に然阿良忠を開山として佐助ヶ谷に建てた蓮華寺を1243年（寛元1）に現在の地に移して光明寺と改めたのがはじまりといわれる。江戸時代も徳川家康や家綱の擁護を受け、学問と修業の中心として栄えた。また皇室との関係も深く、後花園天皇からは山門にある「天照山」の掲額を、後土御門天皇からは、関東における念仏修業根本道場として「関東総本山」の称号を受け、国と国民の平和を祈る「勅願所」となった。本尊は阿弥陀如来（県重文）

また、見所は記主庭園（蓮池）、三尊五祖の石庭（石庭園）、延岡藩主内藤家墓所と多く、同寺で写経をしてきました。



高さ約 20m の巨大な二重門の山門



三尊五祖の庭園



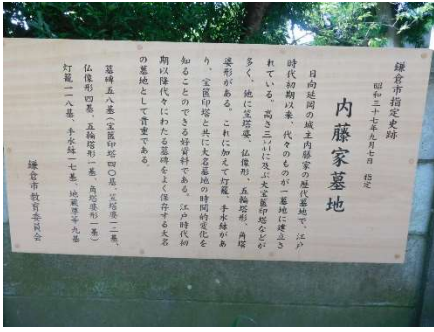
紀主庭園とハス



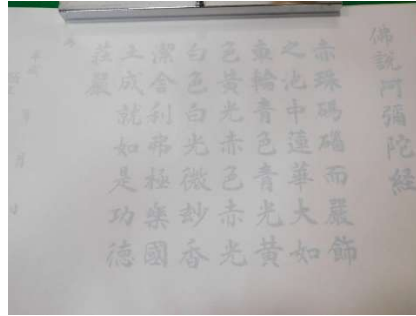
御本尊の阿弥陀如来



本堂



内藤家の墓地



写経台紙